



稲穂

豊崎小学校 校長室通信

令和6年1月16日

第10号 文責 久保 亨



今年もよろしくお祈りします



1月15日(月)に、後期後半がスタートしました。初日から、全校児童46名、全員が元気に登校することができました。冬休み中、子どもたちは、事故や非行もなく、ゆっくり休んでたっぷり楽しむことができた様子で、ご家庭でのご指導に感謝申し上げます。

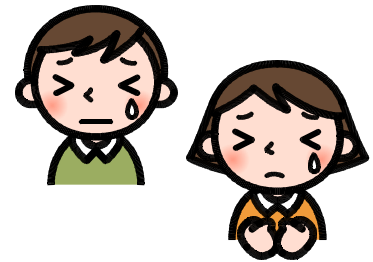
新年早々に大きな災害や事故が起こり、軽々に「明けましておめでとうございます。」と言えない状況となってしまいました。学校では、避難訓練をはじめとする災害に備えた準備を遺漏なく進め、いざというときの心構えの醸成にも努めていきます。

人は折れたら折れただけ強くなる

さて、この表題は、今年の箱根駅伝大会の優勝校・青山学院大学陸上競技部を率いる、原 晋 監督の言葉です。原さんは、選手の育成に手腕を発揮していますが、「人を育てる」点で重要なことは何かというインタビューで、「子どもにもっと挫折させて」と言います。以下に、一部抜粋します。

――親は子に安全な道を求めたくなくなってしまいます。

「可愛い子こそ挫折させるべきだ」と思います。失敗しないよう、すべてに手を差し伸べていたら、子どもたちは「何か失敗したら怒られるんじゃないか」と気にしてしまうでしょう。「こうしたい」という自分の気持ちをもって活動できる人間のほうが「世の中を変える」力があるはずです。



――小さい子にも挫折を経験させていいのでしょうか。

早すぎることはないと思います。勝った喜びや負けた悔しさは、五感で感じるもの。経験が心を大きく成長させるのではないのでしょうか。勝ち負けの経験も「勝った＝よいこと」「負けた＝だめなこと」と教えるのは疑問です。負けても精一杯チャレンジしたことに、親は「金メダル」をあげてほしい。

スポーツ以外でもそう。かけ算の九九も、習得には差が出ます。多少遅くたって、最後まで頑張ればそれでいい。苦手なことがあれば、別の分野で頑張れることを探せばよいのです。

挫折も失敗もしない人は、挑戦もできません。私も、子どもたちには、ことあるごとに「失敗するのは当たり前。どんどんチャレンジしよう。」ということをお話しています。ですから、失敗しても、叱責しません。失敗を叱責してしまうと、失敗を恐れる子どもになってしまいます。



挫折をするということは、裏返すとそれまでに相当の努力をしているということです。子どもたちの努力をほめ、たくさんの経験を積ませていただければと思います。

令和6年も、どうぞよろしくお祈りいたします。